

2 主に「思考・判断・表現」に関する授業内評価の方法と活用

思考したものをいかに引き出すか

思考・判断・表現の評価においては、思考は出来てもそれを表現できない生徒などがいるため、思考からそれを表現するまでの力をいかに引き出すかが重要である。思考から判断・表現へと至るにはまず「思考の方法」を身に付ける必要がある。基礎的な知識や思考の方法をまずは具体例を挙げながら全体へ指導し、そこから個人のカで思考していくという過程を経ることが効果につながっていくと考えられる。

「思考の方法」を身に付けさせるための留意点や工夫

- ◎発問をシンプルにする…………… 意見を出しやすい発問や、生徒同士が意見をシェアしやすいようにする。
- ◎スモールステップ…………… 段階を踏みながら、徐々に思考につなげていく。
- ◎時間の確保…………… 思考から表現に至るまで、生徒が十分に考える時間を確保することが大切である。
- ◎考えなどの共有方法の工夫…………… ICTの活用や挙手、ホワイトボードなど。場に応じて共有方法を考える。
- ◎小グループやペア活動の活用…………… 生徒同士の話し合いや意見共有などを通して考えを深める場面をつくる。人数は授業内容によってグループの人数、など工夫する。

表現の方法・活用の例



	方法	活用例と良い点
ICT活用	Jamboard	・ GoogleのJamboardに書き込んで意見を共有する。 それにより、気軽に自分の意見を表現することができる。
	GoogleForms	・ GoogleFormsを活用することにより誰が何を書き込んだ（回答した）かわかるので、記録して総括に用いる評価として生かすことができる。
	良い例の共有	・ 生徒のプリントや成果物など、良い例などを写真に撮りGoogleClassroom上にアップし、共有できるようにする。
	動画	・ 保健体育のマット運動では、練習の様子を録画して自分の演技を自ら確認することができる。また、よい演技は手本動画として活用する。
アナログ	ホワイトボード	・ グループ協議などでの意見をホワイトボードに書かせて共有する。
	作品を鑑賞し合う	・ 制作した作品などを互いに見せ合うことで、どのように技法を応用しているか、他者のアイデア・工夫など様々な思考や発想を感じ取ることで、自らの考え方を広げられる手助けとなる。
	付箋を使う	・ 付箋に感想や意見を書かせプリントに貼ったり、意見ごとにまとめて貼ったり全体やグループで共有する。